

# S E R I NEWS RELEASE

平成20年1月15日  
財団法人 静岡経済研究所  
理事長 古知弘行

〒420-0853 静岡市葵区追手町1-13  
アゴラ静岡 5階

TEL 054-250-8750  
FAX 054-250-8770

平成20年1～3月期 静岡県内主要産業の四半期見通し

## 減速で踊り場に差し掛かる県内産業景気

当所が実施した県内主要産業（22業種）の四半期見通し調査によると、現在（10～12月期）の業況は、『好調』が1業種（工作機械）、『順調』も1業種（情報サービス）、『普通』が9業種、『低調』が10業種、『不調』が1業種となった。県内の産業景気は底堅いものの、前回調査時に『普通』であった2業種が『低調』となり、減速の動きがみられる。

また、今後（1～3月期）については、全22業種が『横ばい』を見込む。工作機械や情報サービスは堅調な見通しで、民生用電器部品や楽器も前年以上の生産・出荷を期待するが、売上が伸びない中で原材料高を圧迫要因と見込む業種が多い。輸出と設備投資にけん引されて改善を続けてきた県内の産業景気は、原材料高や米国景気の減速で踊り場に差し掛かっているといえよう。

### 県内主要産業の動向

#### （1）現在の業況について

県内主要産業の現在（10～12月期）の業況は、『好調』が1業種（工作機械）、『順調』が1業種（情報サービス）となり、以下、『普通』が9業種、『低調』が10業種、『不調』が1業種となった。前回調査時に『普通』であった2業種（二輪車部品とリース）が『低調』となり、全業種の平均階級値は2.59（前回調査比 0.09ポイント）に低下した（[次頁図参照](#)）。工作機械や情報サービスをはじめとして、『普通』以上の産業が11業種と全体の半数を占め、県内の産業景気は底堅く推移しているが、米国向け輸出や設備投資にブレーキがかかり、一部の業種で減速感が出はじめている。

## (2) 今後の見通しについて

一方、1～3月期の見通しについては、全業種が『横ばい』を見込んでいる。業種ごとにとみると、アジア、欧州向け輸出が好調な工作機械や、情報化投資に支えられた情報サービスは、引続き堅調な見通しである。また、現況を『普通』とする業種の中でも、民生用電器部品や楽器では前年以上の生産・出荷が見込まれるが、段ボール原紙、自動車部品、運輸・倉庫をはじめとして、売上が伸びない中で原材料高が圧迫要因となりそのような業種が多い。一方、『低調』業種では、製材や建設で改正建築基準法による審査の遅れが緩和・解消される見通しであり、製茶や百貨店では“寒い冬”の到来に売上増を期待するが、業界景気を『横ばい』から『やや上昇』や『上昇』に転じさせるほどの好材料は見当たらないようである。

## (3) 需給バランス、在庫水準、価格動向について

需給バランスは、『供給超過』が5業種と前回調査に比べて1業種減り、製品在庫水準も、『過多』が2業種と1業種減少した。一方、原材料価格は、前回調査と同じく15業種が『上昇』を見込むが、製品価格の『上昇』は3業種しかなく、原材料コストの『上昇』を製品価格へ転嫁できない状況が続く。

輸出と設備投資にけん引されて改善を続けてきた県内の産業景気だが、原材料費の上昇や米国景気の減速を受けて、踊り場に差し掛かっているといえよう。

### 四半期ごとの県内産業の業況の推移

年次		平成17年				平成18年				平成19年			
四半期													
対象月(は調査月)		1~	4~	7~	10~	1~	4~	7~	10~	1~	4~	7~	10~
現在	好調	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	順調	0	1	1	1	2	2	2	2	1	1	1	1
	普通	7	5	6	8	7	7	7	9	10	11	11	9
	低調	12	12	12	9	10	11	11	9	9	8	8	10
	不調	2	3	2	3	2	1	1	1	1	1	1	1
業況	全業種の平均階級値	2.36	2.32	2.41	2.45	2.55	2.59	2.59	2.68	2.64	2.68	2.68	2.59
	好調: 5												
	順調: 4												
	普通: 3												
	低調: 2												
不調: 1													
今後の見通し	上昇	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	やや上昇	0	0	1	0	0	0	2	1	0	0	0	0
	横ばい	21	21	19	22	22	21	20	21	21	22	22	22
	やや下降	1	1	2	0	0	1	0	0	1	0	0	0
	下降	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注1) 調査は、毎年3、6、9、12月に実施。現在の業況とは、調査時点(12月調査なら10～12月期)における業況、今後の見通しとは、調査時点における翌期(12月調査なら1～3月期)の見通しを示す

注2) 平均階級値は、好調：5、順調：4、普通：3、低調：2、不調：1とする全22業種の平均値

## 平成20年1～3月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

調査項目 業種	業界景気の現況	業界景気の見通し	静岡県内主要産業の見通し									
			生産量 (1～3月期の) 前年同月比伸比率	出荷額 (1～3月期の) 前年同月比伸比率	生産量 (前年同月比) 伸比率	出荷額 (前年同月比) 伸比率	操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格の動向 (前10ヶ月期対比)	製品価格の動向 (前10ヶ月期対比)	資金繰り
製茶	●						均衡	適正			普通	
缶詰	●						均衡	適正			普通	0.5～1.0
広幅織物	●			↘	↘		供給超過	過多			普通	0.5～1.5
製材	●						供給超過	適正			普通	
家具	●						均衡	適正			普通	0.5～1.5
家庭用薄葉紙	◐						需要超過	過少			普通	0.3～0.5
段ボール原紙	◐						均衡	適正			普通	1.0～1.5
工作機械	⊙						需要超過	適正			普通	3.0～9.0
民生用電器部品	◐						均衡	適正			普通	0.3～1.7
二輪車部品	●						均衡	適正			普通	
自動車部品	◐						均衡	適正			普通	0.1～2.0
サンダル	///						供給超過	過多			普通	0.5～1.0
楽器	◐						均衡	適正			普通	
プラモデル	◐						均衡	適正			普通	
漁業	◐						均衡				普通	
建設	●						均衡				普通	1.3～10.0
大型小売店	●						供給超過	適正			普通	
自動車販売	◐						均衡	適正			普通	
運輸・倉庫	◐						均衡				普通	
情報サービス	○						需要超過				普通	
観光・レジャー	●						供給超過				逼迫	
リース	●										普通	

### 表の見方と注意

業界の現況	業界景気の見通し	操業度	需給バランス	製品在庫水準	生産量・出荷額の伸比率 原材料・製品価格の動向	資金繰り
好調 ○	上昇 ↗	100～90%	非常に需要超過	非常に過少	非常に増加・上昇 (10%以上) ↗	非常に余裕
順調 ○	やや上昇	89～80%	需要超過	過少	増加・上昇 (3～9%)	余裕
普通 ●	横ばい	79～70%	均衡	適正	横ばい (2～2%)	普通
低調 ●	やや下降	69～60%	供給超過	過多	減少・下降 (3～9%)	逼迫
不調 ///	下降 ↘	59%以下	非常に供給超過	非常に過多	非常に減少・下降 (10%以上) ↘	非常に逼迫

(注) 「業界の現況」及び「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。

印欄は季節性が強いため、「前年同期比伸比率」を参照していただきたい。

調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。

調査時点...平成19年12月中旬。

調査対象企業...県内主要22業種の企業176社。